

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
牛島委員	本日はスポーツに関する協議に入っていきたいと思います。
遠國主査	～別紙資料に基づいて説明～
村田主事	～文部科学省委託事業のスポーツ政策検討委員会の会議の意見集約について別紙資料にて説明～ 住民主体で協議を継続していくこととなり、これまで協議した内容を含めて総合計画に反映していきたいと思う。
高木部長	ご意見をいただいたということで、この中でも協議していただけたらと思う。
牛島委員	施設の老朽化、スポーツ合宿、スポーツの振興といったところで、ご意見があればお願いしたい。
伊藤委員	スポーツ合宿は、NECラグビー部の受け入れで限界か。他にできないから声かけないのか。
遠國主査	他にバスケットボールが過去に来ていたが、受け入れは可能である。ラグビーについても時期をずらせば、社会人・大学なども受け入れは宿泊施設の対応もあるが可能ではある。
伊藤委員	受け入れはできるとしても、やる気があるのか？
高木部長	過去にはユースホステルがあり、学生の合宿であればよいが今は宿泊のキャパがあるので難しい面もある。
村田主事	スポーツ施設の町民の利用も考えておかなければならないと思う。
伊藤委員	宿泊がないというのは分かるが、もっと広げてやろうと気持ちは無いということか。
高木部長	そうではないが、時期や宿泊の関係で、受け入れができるかどうかという課題はある。
伊藤委員	宿泊先と打合せする機会を作らなければ、やろうという気持ちが伝わってこない。やれない理由ばかり並べても、やる気があるのかどうかの問題で、話しをしていけばもう一つくらい受け入れできるのではないか。
浅野主査	スポーツ合宿の受け入れする町のスタンスとして、これまで競技団体が実行委員会をつくって受け入れ、人の繋がりやチームが来ていたところもあったが、明治大学は北見で受け入れていたが、向こうから美幌に来たいと受けたものの、ラグビー協会としても2つも受け入れするのは大変だということもある。北見・網走・津別のように経済効果を求めて沢山受け入れするという政策的な取り組みもあるが、限られた施設や宿泊の規模もあり、町として積極的に何でもかんでも受け入れるというスタンスではないところから始まっている。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
伊藤委員	基本的に実行委員会が立ち上がらなければ、町として受け入れはしないというものか。
浅野主査	バレーボール協会が、こういうチームに来て子ども達に指導してほしいということがあれば当然、町もバックアップはしていくものである。
伊藤委員	近隣市町で受け入れしているようであれば、美幌の子ども達にも声かけしてもらって指導してもらえるようにしてもらいたい。
牛島委員	スポーツ合宿は町が予算つけて、合宿を受け入れていると言っているが、団体が受け入れてやることに町が協力しているという感じで、町のスタンスが分からない。町が本気でやっているのか。町の計画として政策的にやるとしているのに、団体がやるから町が予算付けている様に聞こえて、逃げているようにしか思えない。施設が足りないとか宿泊がないからできないとか、できないことを探してやらないように思える。もっと町がやろうと全面にでて、やるから施設をつくらとかホテルを誘致すべきではないか。スポーツだけではなく観光もそうだが宿泊がないから滞在しないとか何でもそうである。
伊藤委員	精々やってもホテル誘致をすすめるとか、パークゴルフにしても多目的ドームにしてもいつどこにどうやって建てるのか計画が分からないものにこうした話しをいつまでしていても何にも進まない。パークゴルフにしても8年前の公約なのに、前は違うところに作るという話しをしていて今になって農地法が厳しくなったから河川敷に作るなんて、理解に苦しむ。まして、スカイスポーツの町といって整備した航空公園を取り壊して、そこにパークゴルフを作るなんて事はどうなのか。スカイスポーツの町として金をつぎ込んで、やるのかやらないのか？町が行政指導していかなければスカイスポーツ振興協会も動けない。町民に対する理解が無い中で、何をどうしていくのか、多目的ドームがどういう計画で進んでいくのかさっぱり分からない。8年経ってできないものを5年先10年先を考えてもできそうにもない。もっといつどこに作るのかという計画があれば、もっとアイデアは出てくると思うが、今更こんなできない事に無駄な時間掛けて話しさせられてもやる意味がない。
高木部長	多目的ドームの建設については、この計画の中で、前期5年なのか後期なのか盛り込んでいくかという話しである。
伊藤委員	やるという前提で話しをしていかないと、こんな会議で話ししてもできるかできないか分からない中で、話ししていてもダメだということだ。
浅野主査	この話し合いで出た意見をまとめて、できる・できないという判断は、これからであり、行政の中でも判断していかなければならないが、今ここで話しをしているのは皆さんの意見をまとめて計画にどうやって載せていくかという意見をいただく場である。昔はスカイスポーツを振興していこうという時代があったかもしれないが、今、町民はそれを望んでいるのかどうかということ。時代の流れの中でスカイスポーツを振興していこうということが町民の総意なのかということは皆さんの意見を聞き、行政も受け止めて行くための会議であると思う。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
伊藤委員	この意見が、5年10年経って同じ話にならないようにすべきである。
高木部長	宿泊施設がなくて、合宿も受け入れできない。
木村委員	宿泊が見込めないから誘致できないとか、宿泊先がないから観光が望めないではなく、スポーツ合宿にしても合宿誘致を積極的にするからホテル誘致をしようとかしていったらよいのではないか。
牛島委員	スポーツだけでなく、観光も文化も含めて、宿泊者はグランドホテルに泊まらないで北見・網走に行ってしまう。客を逃がしている。
木村委員	町としてこれだけ見込めますとか押しますからホテルに来てください。合宿をこれだけやりますと町が打ち出していかなければダメではないか。
高木部長	飛行機のパックでも町内で受けているところはないので、北見・網走になってしまう。
伊藤委員	デュアスロン大会も場所がないとか、宿泊がない。バレーボール大会の当番校でも道立北見でやるとかになってしまう。地元の宿泊関連の施設と受け入れすることを話ししていかなければ進まない。
木村委員	スポーツクラブは自主運営の目処は立っているのか。
遠國主査	何とか自主運営できるよう身の丈にあった運営をしていくことで、町の負担金80万円を活用しながら始まったばかりであるが、運営できるようにしていくと思う。
牛島委員	身の丈にあった運営というのは聞こえは良いが、負担金がこれだけでその中だけでやろうとするのか。そこにやる気がどれだけあるかだと思う。これだけしかやらないからこれだけしか負担金出さないではなく、スポーツ振興として、これだけ出すというものも必要ではないか。
村田主事	文科省の事業でスポーツ政策の会議に取り組んできたが、そこで出てきた意見を行政としてもしっかりと受け止めて行くことも大事であり、住民が主体となって今後も継続して協議していこうという動きになったことは望ましいことで、スポーツ振興計画を作るにしても行政が主導で行うのではなく、住民が主体的に関わって年1～2回話し合いながら進めていこうとしていることに行政が支援・協力して、スポーツ振興計画をつくっていったらと考えている。
牛島委員	3名の方々が年2回の会議で支えられるんですか。
村田委員	そこでスポーツ振興計画を作るわけではなく、今の段階でその方々の思いをもう少しまとめていけたらということで、そうした気持ちを持ってくれたことに対して行政も応えていきたい。
伊藤委員	会議で出た意見を計画として実現できるかどうかを確認する意味も含め、会議を継続しようということである。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
木村委員	<p>オリンピック・パラリンピックの選手が出ているが、町が頑張っていてオリンピック選手が出ましたなのか、オリンピック選手が出たから町としてそれに乗っかっているのか。選手が出たんだったらそういう選手が育つ町なんだとか押していくべきだし、このスポーツ政策会議についても2年で終わるのではなく、スポーツ合宿にしても町がどんどんやりますと出していくべきでは。スポーツの町といいながら、宿泊場所がないからできませんとできない理由を挙げていては結局何も前に進まないのではないか。</p>
牛島委員	<p>会議をやろうという人がいるのは良いと思うが、スポーツ振興として、やる人がいるからサポートするとかでなく、共にやるんだということできれば担当いらないでしょう。そういうスタンスは違うでしょう。</p>
村田主事	<p>行政が全て決めてしまうということではなく、住民の意見を吸い上げて反映していこうということが必要であると思う。</p>
牛島委員	<p>人材発掘ということでも、下から盛り上がってくればいいのだが、そうにはなかなかならないから、行政として進めなきゃいけないのではないか。</p>
木村委員	<p>取っ掛かりはどちらでも良いと思うが、住民からやろうとしたことに行政が支援してもいいし、行政がやろうとしていることに住民が押していてもどちらでも良い。住民主体という考えが都合良く捉えられているのではないか。住民のためにやるのであれば、行政がもっと発信していいと思う。</p>
牧野委員	<p>何十年も掛けて、団体を育てて活動してきたことが、今こうして積み重なって結果が出てきたのだと思う。それはとても大事なことであるが、それを今後どう継続して活動を繋いでいくかが大事である。オリンピック選手が出たことで、トップ選手だけではなく、美幌の子ども達に夢が実現できるという気持ちや夢を抱ける様にどう行政も取り組んで行くかである。女満別高校も野球で活躍していたが、そこには美幌の子ども達が結構行っている。どうやって地元の高校に残していくか。美幌にはそうした素地があるのだからもったいない。</p>
伊藤委員	<p>小規模校のときは地元の人が指導員になって子ども達を育ててきたが、今は少年団の活動をどうやってしっかり支えて充実できるかという事が課題である。</p>
木村委員	<p>美幌の悪いところはリスクを背負いたくないところがある。オリンピック選手が出て、選手が出ましたではなく、どうしてそうした選手が育ったとかを突きつめていくことで、これからもそうした子ども達が続いていける町なんだということをアピールしていくのが役割ではないか。</p>
高木部長	<p>結果としてオリンピック選手が出たということではなく、それぞれに経過がある。高校・大学を経て国際大会に出て、本人の努力もあるかもしれないが地元で育ててきた選手がオリンピック繋がっているということは町民にも理解してもらっている。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
木村委員	そういう風に見えてしまう。その過程が大事だと思う。
牧野委員	美幌はこの町の規模としては、スポーツにすごく熱心で、他の町が美幌を見習ってきている程。多様なスポーツが頑張っていて欲張りすぎているのかもしれないが、身の丈という用語弊があるが、できることを集中してやってもいいのかもしれない。
浅野主査	美幌町の体育協会は全道的にもすごく組織としてしっかりしていて、これだけの団体が育っているということは、住民パワーがすごい。それぞれの団体が頑張っていて、それをバックアップするのは行政であるが、全てを行政が満遍なく支援するというのは担当だけは厳しい。逆に住民の思いがあって、そこにどれだけ予算を付けて環境整備できるかとか、ラグビー合宿をもう少し受け入れしようとか冬季スポーツの支援に力を入れようとか町の施策としてやっていく必要があるといった意見が、スポーツ政策会議の中でも出ていたが、町として特徴を持って取り組んで行くことで、オリンピックも目指せるんですよということで、子ども達も呼び込むことができるのかと思う。
牛島委員	そこのオリンピック選手を目指せる環境があるということで、人口減少をくい止められるようなことが、行政としても押さえていくことが大事だと思う。
浅野主査	選択肢は色々あると思う。これだけの競技団体があるという意味では、色んな事ができる。網走であれだけラグビー合宿を受け入れているのに、市にラグビー協会ができたのも最近のことで、学校授業でもタグラグビーを取り入れるようにしているが、ようやく組織ができたところである。これから2020年に東京オリンピックを迎える上で美幌としてはどうしていこうか、そうした思いも計画の中に何か入れていった方がよいのではないか。また、網走・北見でトップ選手を受け入れているが、連携会議の中で美幌にはこうした施設があるとか特徴をPRするなど働きかけをしていったらよいのではないかと思う。
伊藤委員	美幌高校にクロカンをやりたいと民泊して受け入れるということもあった。スポーツをしたくて美幌高校に来るということもある。
牧野委員	バスケットボールも今は強い。野球の監督も来ていた。
浅野主査	それはJALのバスケットボールの合宿が来ていたことが強化に繋がっていて、指導者も指導を学んで指導力が向上したり、スケートも少人数であるがトップ選手が美幌で合宿してくれていて、環境はとても良いと高評価を受けている。
牛島委員	もっとそれを全面に発信していったらよい。高校の間口減と記載されているが、高校でトップを目指せると行ったことをアピールして、他に流れないようにしていったらよい。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
牧野委員	道教委はどこに流れるとかは関係なく、その人数分の間口を確保しようとするとき、大きいところは残るかもしれないが、高校の特色なんかは資料には出てこない。学校の人事権も含めて町にゆだねて学校づくりをしてほしいと思う。
牛島委員	中学校の進路指導も含め地元高校へ行ってもらおうよう高校側にも魅力を伝えてほしいと思う。
牧野委員	パークゴルフ場は作るのか？
木村委員	水の氾濫がどうのこうのと言っているが、上にずらしたところでどうなのか。
高木部長	過去に平成4年に大きな水害があったとき、その下は被害があったが、水は着いたものの、そこまで被害はなかった。
牧野委員	10年くらい前には、ほしいという人もいたけど、最近は別にいらぬとはいわないが、そこまで行けない。逆に近くにあればそれで十分である。
伊藤委員	上美幌や美富、日の出にもある。そんな72ホールも作る必要があるのか。36ホールで十分だと思うし、それくらいなら柏が丘周辺で十分スペースとれるだろう。大正橋には今のホール数で十分だし、それ以上増やしてどうするのか。陸の上に36ホールちゃんとしたものをつくって、河川敷と連動していけばいい。河川敷でも芝が付くまでに5年くらいは時間もかかる。
牧野委員	簡単に用途変更できるところに作るとまた、やめて違うところにということになるのでは。
木村委員	造成に3億円？それだけ掛けて、高齢者の使用料を下げると聞いたことがあるが、高齢者しか使わないのに、高齢者の料金を下げたら維持費ばかり膨らんで、若者の税金が使われてしまうのではないか。
高木部長	必ずしも高齢者とは限らないが、比較的年齢は高い。健康作りに繋がることはあると思う。
木村委員	パークゴルフをやっているから健康だというのは、こじつけではないか。そもそもパークゴルフをやっているような人はそれだけでなく、アクティブな生活をしているから健康なのではないか。
伊藤委員	施設に金かけて維持費ばかりがかかってしまっているのは、後々子ども達に負担が回ってくるということである。
木村委員	その通りで、もっと老朽化している施設とか多目的ドームを作った方が子ども達が有効に使えて良いと思う。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
牧野委員	<p>この中で議論するとそうなるのかと思うが、町長のマニフェストだからやらなきゃならないものなのか。もしそれが外れるのであれば、スポーツ全体を考えるとなぜにパークゴルフ場なのかということなる。現にパークゴルフ場があってこれだけ満足度が高いのに、なおかつ、それを作ろうとするには明確な理由や説明ができなければ、多額のお金を投じて作ることに話しの整合性がとれない。</p>
木村委員	<p>交通の弊害もあると聞いているので、そこを整備するくらいでも良いのではないか。</p>
牧野委員	<p>3億もあればスケートリンクも舗装して、もっと早く良いものができるのではないか。</p>
木村委員	<p>今は新しいパークゴルフ場はいらない。もっと他に最優先事項でやるべきことがある。だったら、もっと子ども達の体力が低下しているのなら体力向上にお金をかけていった方が良い。これからの子ども達が支えていくのだから。</p>
牛島委員	<p>スポーツセンターの建て替えは。優先順位はどうなのか。</p>
村田主事	<p>冬期間の活動場所は足りない状況にあるので、多目的運動場の話が出ている。</p>
伊藤委員	<p>スポーツセンターは床も屋根も改修して、古い施設ではあるが、あれだけ広い体育館を作ってくれてありがたい。耐震補強してくれれば十分かと思うが、屋外競技の施設も近くにあった方が使い勝手も良いと思う。どうして、あそこに職業訓練校があるのかと思う。</p>
高木部長	<p>町の中には、あれだけの広い敷地は求めにくい。 屋根と壁の補強はしなければならない。</p>
浅野主査	<p>課題としては、アップができるサブスペースがないこと。</p>
伊藤委員	<p>隣にサブアリーナとか室内運動場を建てればいい。</p>
浅野主査	<p>施設の集約という意見もある。また基金を積んできたところでは、パークゴルフ場と一緒に室内多目的運動場も基金に含められているが、パークゴルフが先行している。</p>
牛島委員	<p>パークゴルフ場は課題が多すぎるから、先に室内運動場から手をつけたらいいのでは。</p>
浅野主査	<p>色々ご意見があろうかと思うが、首長が以前から掲げていたマニフェストでもあり動き出しているもので、それをストップするというにも政策的な判断があろうかと思う。</p>
木村委員	<p>町長選で住民投票するしかないですね。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
高木部長	平成4年に大雨で下から全部やられたが、航空公園のところは水は着いたくらいで、被害はそれほど無かったので大丈夫だと思う。
木村委員	多額の費用を掛けて河川敷のあそこに作るというのが解せない。
伊藤委員	今は原発事故もあるくらいで、想定外のことが起きる時代だから過去が大丈夫だからといって参考にならない。管理する方も緩くない。管理する道具も保管する場所も必要である。
浅野主査	そうした意見としては、白書の中でもご意見はあるので、ここでの皆さんのご意見として、後は教育委員会と町全体での判断も含め、今後整理していきたい。
牛島委員	パークゴルフと室内ドームを2つとも整備していくということで計画に載せていたらいいと思う。
浅野主査	白書でも室内運動場の要望が多い。冬期間の運動場所の確保やスポーツセンターが飽和状態なので、そこはスポーツセンターと併設できるのかも含め、室内運動場の必要性が高いということによろしいか。
全体	よい。
牛島委員	室内運動場はどの程度の規模を考えているのか
遠國主査	まだ、これからであるが、テニスができるとかというスペース
牛島委員	網走の呼人のようなはどうか。
高木部長	そこまでのものは考えていない。
伊藤委員	学校と社会教育が連携して子ども達が使えるようにしたらいい。
浅野主査	<p>指導者育成は町が取り組んで行くことは当然であるが、学校教育の中に町の指導者がしっかり入り込んでいけることが大事であり、学校の先生方も貴重な人材である。行政が間に入ってでも地域の競技団体と繋がっていけるようにすることで指導者も育っていくし、先生がいなくなっても地域で繋げていけると思うので、連携強化していく必要がある。</p> <p>スポーツ政策検討委員会で協議されたものは、教育委員会の方でしっかり整理して、計画に盛り込んでいくものは明記して皆さんにも確認して欲しい。今後も住民主体で協議されるということであるが、それが教育委員会として、しっかりその会議がどういう立場で意見が出され、それをどう受け止めるのかをきちんと押さえて進めていく事が大切で、そこに体育協会が町全体のスポーツを考えていく立場として、行政が主導して進めていくことも必要だと思う。これまで大学の先生を招いて協議してきたがまとまりきれずに協議を続けるという感じもしている。今後、その話した内容を踏まえスポーツ振興計画を作るのか作らないのかについても教育委員会として整理して計画に明記していった方がよいと思う。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
牛島委員	住民抜きではできないと思うが、行政が黒子になって支えていくか、または引っ張っていくかしないと力が出せないと思うので、「これは」ということは計画に明記して行ってほしい。
浅野主査	次回まちづくり会議の説明